

先生

karinomaki

統合失調症です。

---

私は精神病患者です。病名は、統合失調症です。この病気は、21年前、今この世にいない人、哲学者のカントに惚れ込むことで発症しました。

「君を愛している」という、カントの声が降ってきたのです。

## カントへの愛

---

私は、発病当時、大学受験を目前に控え、センターテストの勉強中でした。私がとった科目の中に、「倫理」があり、カントは教科書の中に過去の偉人として登場しました。

カントは、人間の認識は、経験を頭の中で加工する、悟性の働きによって成立するという考え方でした。そして、義務という、頭の中に天から降りてくる、良心、善意志について書いていました。

私は、その考え方を知ったとたん、それまで頭の中でバラバラになっていた、今までの記憶が美しく組み立てられ、美しい良心の声が降り注ぎました。そして、カントの声を聞いたのです。

それが、「幻聴」です。私はカントを愛して統合失調症を発症したのです。

## 天国

---

それから、天国の階段を上るような暮らしが始まりました。どこへ行っても、何をしても、「カントさん」と一緒です。カントさんが指示を降ろしてくれた通りに動くと、楽園のようです。

しかし、すぐに地獄がおとずれました。

悪魔がやってきたのです。

助けて・・・

---

助けて・・・という、私の声にならない叫びは、その時医学部で勉強していたに違いない、私の先生へのものでした。私は、指輪を買いあさりしました。そして、その時は指輪という、「物」が助けてくれると思い込んでいました。間違いなく、私の魂は、その時から、二才年上の先生を知っていました。

## H病院

---

しかし、私はH病院という、総合病院に入院となり、20代は入退院を繰り返しました。その合間に父は死に、母は新しい人と暮らし始めました。

## カントの哲学を図にする

---

20代後半、やっと退院した私は、あることを始めました。カントが三つの批判書と言われる哲学書で書いたことを、図に書き続けることです。

その図は、ある人に全て捨てられましたが、私は、そのようなものもう一枚もありません。今でも、何もしないでそんな図は何枚でも書けるとわかったからです。

## 先生

---

やっと先生と出会ったのは、40才の時でした。私は精神病薬を断薬し、妄想が炸裂した状態でした。

そんな状態だったので、夜中に病院に連れて来られた時の先生の顔は、はっきり覚えていません。

しかし、最初の診察の時、私は先生の態度を観察してはっきり思いました。

私の力を決して消すことなく、しかも完全に近い状態に回復させてくれるたった一人の先生に出会えた。

先生は、壁を背にして立つことも、椅子に座ることもせず、私の目線より下になるように、床にしゃがんでくれたのです。

私はそれを見てびっくりしたのです。

## 孤独と恐れ

---

先生はおそらく、私の心の中が全て見えているのだと思いました。

自分は正しい、他が間違っている。そう考えて、哲学者は書いていきます。しかし、ある時、気がつくのです。雷に打たれたように。自分よりはるかに強く、正しい人がいると。

カントも、ルソーとヒュームにそれを教えられたそうです。

私は極度の孤独から、周りを恐れるあまりに、自分の正しさを主張したくて、カントを心に呼び込みました。そして、カントの図を書いて、孤独を埋めていました。

もうその図はこの世になく、必要もありません。

私はカントの、虎の威を借りていたにすぎなかったのです。

先生は、おそらく、H病院からの紹介状を見て、私の孤独と恐れ、そして傲慢を知ったのです。だから、最初の診察であの態度をとってくれたのです。

## 先生が好き

---

私は先生が大好きです。時々先生は、嵐のように私を怒りました。体がふるえるほど怖かった。でも、私の孤独と傲慢、頑なな心は先生が、薬ではなく、その厳しさとやさしきで治して下さいました。

先生、私はどんなに周りに支えてくれる人がいても、子供の頃からの孤独と心の闇は治りません。私は、一生病気と戦います。しかし、先生とずっと前から出会いたくて生きてきた気がするのです。

退院させて下さってありがとうございました。これからも、孤独と戦いながら、哲学を続けます。そして、やっぱりカントを愛しています。好きな人を一人にしぼれません・・・。